

中 学 校

令和3年度

教育研究員研究報告書

特別の教科 道徳

東京都教育委員会

目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の視点	2
III	研究の仮説	2
IV	研究構想図	3
V	研究の内容	4
	1 基礎研究	4
	2 調査研究	6
	3 実践研究	8
	〈指導事例1：第2学年〉	8
	〈指導事例2：第1学年〉	10
	〈指導事例3：第1学年〉	12
	〈指導事例4：第3学年〉	14
VI	研究のまとめ	16

研究主題

主体的に道徳的価値の理解を深める授業の工夫 ～生徒の「問い」を生かした授業展開を通して～

I 研究主題設定の理由

1 研究主題について

学校教育法施行規則の一部改正（平成 27 年 3 月 27 日）により、中学校では、平成 31 年 4 月から「特別の教科 道徳」（以下「道徳科」という）が全面実施されている。そして、中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編（平成 29 年 7 月）（以下「道徳編」という）では、「生徒が自ら道徳性を養う中で、自らを振り返って成長を実感したり、これからの課題や目標を見付けたりすることができるよう工夫すること。その際、道徳性を養うことの意義について、生徒自らが考え、理解し、主体的に学習に取り組むことができるようにすること」と記されており、道徳科において、生徒が主体的に学習に取り組むことが求められた。また、中央教育審議会答申「令和の日本型学校教育」の構築を目指して（令和 3 年 1 月 26 日）（以下「令和の日本型学校教育」という）では、これからの予測困難な時代において、目の前の事象から解決すべき課題を見だし、主体的に考え、多様な立場の者が協働的に議論し、納得解を生み出すことの重要性が示された。さらに「令和の日本型学校教育」において、社会の変化にいかに対処していくかという受け身の観点に立つのであれば難しい時代になる可能性を指摘した上で、変化を前向きに受け止める必要性や、豊かな情操や規範意識、自他の生命の尊重、自己肯定感・自己有用感、他者への思いやり、対面でのコミュニケーションを通じて人間関係を築く力、困難を乗り越え、ものごとを成し遂げる力、公共の精神の育成を図ること等、道徳科における道徳的価値ともつながる内容が重要であると示された。

本研究についての協議を進めていく中で、日々の道徳科の課題として、「もっと生徒の主体性を育む授業を行いたい」、「生徒が積極的に発言し、本音で語り合う授業展開を工夫したい」という教員の授業展開の課題や「生徒は、困難な課題に直面したとき、主体的に判断する力が養われているか」、「道徳科の授業では、道徳的価値を理解しているように感じるが、道徳的実践意欲にまでつなげられているか」などの生徒の道徳性に関わる課題が挙げられた。

また、道徳編には「生徒が今後、様々な問題場面に出会った際に、その状況に応じて自己の生き方を考え、主体的な判断に基づいて道徳的実践を行うためには、道徳的価値の意義及びその大切さの理解が必要になる」と記されており、道徳的価値について理解する学習は、欠くことができないことを改めて確認した。

以上のことから、本研究では、「生徒の主体性」と「道徳的価値の理解」に着目して研究を進めることとし、研究主題を「主体的に道徳的価値の理解を深める授業の工夫」と設定した。

2 副主題について

道徳編では、「問題解決的な学習は、生徒の学習意欲を喚起するとともに、生徒一人一人が生きる上で出会う様々な問題や課題を主体的に解決し、よりよく生きていくための資質・能力を養うことができる」と示されており、問題解決的な学習の考え方は、本研究の「主体

的に道徳的価値の理解を深める授業の工夫」を実現する手だてとして有効であると考えた。問題解決的な学習を基にした道徳授業の中で、更に生徒の主体性を引き出すための工夫として、生徒自らが授業の中で生み出した「問い」について生徒同士が話し合う時間を設定することとした。本研究における「問い」とは、生徒自身が理解している道徳的価値を基に、教材による追体験から生徒が深く考えたいことや級友の考えを聞きたいことなどを表出させることと定義した。生徒自身に「問い」を生み出させる工夫を取り入れることで、生徒は、主体的に本時における道徳的価値の理解を深め合うことができると考え、副主題を「生徒の『問い』を生かした授業展開を通して」と定めた。

II 研究の視点

1 生徒の「問い」を生かした授業展開の工夫

生徒が道徳的価値の理解を深める研究主題に迫るために、生徒が生み出した「問い」を授業の中心に設定できるよう授業展開を工夫した。生徒自身に「問い」を考えさせるためには、本時のねらいとする道徳的価値に注目させることが重要である。教員が授業展開の中で、ねらいとする道徳的価値を問う発問をすることにより、生徒は、教材の内容や自分自身の経験などから、ねらいとする道徳的価値について焦点化して考えられるようにした。さらに、生徒が、ワークシートなどを用いて自分で考えた「問い」をペアや班で話し合ったり、生徒自身が学級全体に問いかけたりする活動を取り入れることで、生徒同士の話し合いが活発になり、互いに道徳的価値の理解を深める手だてになると考えた。その際にICTを活用することで、生徒の「問い」が即時的に共有され、対話しやすい空気が作られる効果があると考え、積極的に活用することとした。

2 教材に内在する道徳的価値を整理した教材分析の工夫

生徒が、「ねらい」とする道徳的価値に沿った「問い」を考えられるように、授業前に教員が教材分析を十分に行う必要がある。そのため、本研究においては、教員が教材に内在する道徳的価値を分析し、その上でねらいとする道徳的価値を明確にした発問を構成することとした。具体的には、本時の「主題」「ねらい」「教材観」を軸にしながらか作成した教材分析シート（詳細はV 1 (2) 参照）を活用して教材分析を行った。教員が、教材分析シートを活用することで、教材に内在する道徳的価値を明らかにするとともに、生徒の考えや発言に基づく道徳的価値を把握することができ、「ねらい」を焦点化した授業展開を行うことができる。それにより、生徒は「ねらい」とする道徳的価値に沿った「問い」について考えやすくなると、本研究では考えた。

III 研究の仮説

教員が、教材分析により教材に内在する道徳的価値を整理した上で、「ねらい」を焦点化する工夫を行い、生徒自身に「問い」をもたせる授業展開をすることで、生徒は自分の事として道徳的価値について理解し、主体的によりよい生き方について考えを深めることができるだろう。

IV 研究構想図

教育研究員 共通研究テーマ 「これからの社会を主体的・創造的に生き抜いていく子供の育成」
研究の背景 ○『『令和の日本型学校教育』の構築を目指して』（中央教育審議会答申 令和3年1月26日）及び「中学校学習指導要領解説『特別の教科 道徳編』」において、「予測困難な時代」の中、目の前の事象から解決すべき課題を見出し、主体的に考え、多様な立場の者が協働的に議論し、よりよい方向を目指す資質・能力の育成が求められている。 ○「道徳教育の抜本的充実に向けて」（文部科学省 平成29年度道徳教育指導者養成研修ブロック説明会行政説明資料）において、深刻ないじめ、情報モラル、自己肯定感の低下などの問題から、道徳科の資質・能力である道徳性を育む要素としての「道徳的価値の理解」の更なる充実が求められている。 ○東京都教育施策大綱（東京都 令和3年3月）において、主体性を育む「子供の個性と成長に合わせて意欲を引き出す『学び』」が求められている。
研究主題 主体的に道徳的価値の理解を深める授業の工夫 ～生徒の「問い」を生かした授業展開を通して～
目指す生徒の姿 道徳的価値について自分のこととして理解を深め、よりよい生き方に向けて主体的に考えを深めることができる生徒
研究の視点 1 生徒の「問い」を生かした授業展開の工夫 2 教材に内在する道徳的価値を整理した教材分析の工夫
研究の仮説 教員が、教材分析により教材に内在する道徳的価値を整理した上で、「ねらい」を焦点化する工夫を行い、生徒自身に「問い」をもたせる授業展開をすることで、生徒は自分の事として道徳的価値について理解し、主体的によりよい生き方について考えを深めることができるだろう。
研究の内容 (基礎研究) ・「生徒の『問い』を生かした授業展開の工夫」について（授業展開） ・「教材に内在する道徳的価値を整理した教材分析の工夫」について（事前準備） (調査研究) ・道徳授業で、生徒が自分自身の問題として考えられる指導の工夫が行われているかを、平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査の生徒質問紙・学校質問紙の結果で分析 ・教員の道徳授業の指導力について、令和元年度東京都道徳教育推進状況調査結果で分析 (実践研究) ・研究の視点に基づく指導方法の工夫・改善を取り入れた検証授業を行う
研究のまとめ 研究の視点に基づく検証授業を行い、本研究の指導方法についての成果と課題を明らかにする。また、検証授業における成果と課題や生徒の変容から、本研究の指導方法が効果的であったかを検証・分析する。

V 研究の内容

1 基礎研究

(1) 「生徒の『問い』を生かした授業展開の工夫」の定義付け

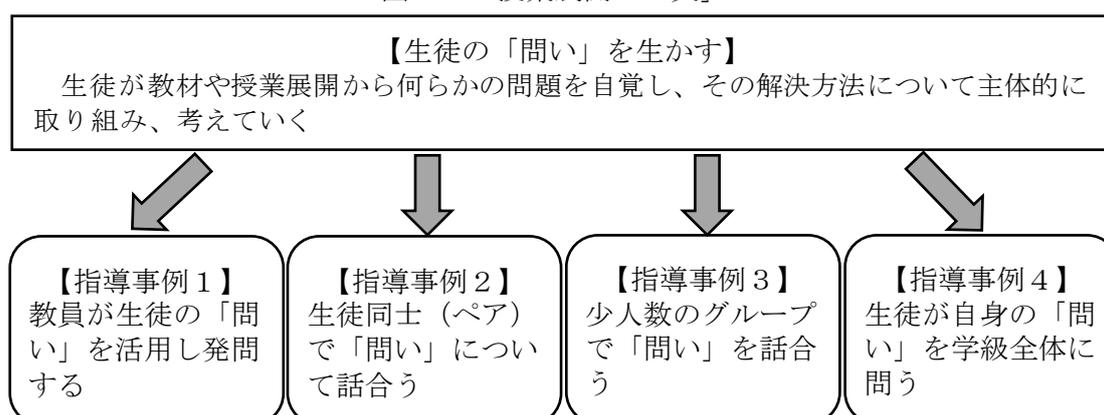
研究主題「主体的に道徳的価値の理解を深める授業の工夫」を実現するために、研究の視点1「生徒の『問い』を生かした授業展開の工夫」を設定した。そして、本研究における研究主題の「主体的」、「道徳的価値の理解」を表1のように定義付けした。

表1 「主体的」、「道徳的価値の理解」の定義付け

「主体的」の定義	「道徳的価値の理解」の定義
<ul style="list-style-type: none">・学習に関する自己調整を行いながら、粘り強く知識・技能を獲得したり思考・判断・表現したりしようとしているかどうかという、意思的な側面。（「令和の日本型学校教育」）・児童生徒自身が主体的に学習テーマや探究方法等を設定。（「令和の日本型学校教育」）	<ul style="list-style-type: none">・よりよく生きるために必要とされるものであり、人間としての在り方や生き方の礎となるもの。（道徳編）・他者との対話などを手掛かりとして自己との関わりを問い直すこと。（道徳編）・規範意識、自他の生命尊重、自己肯定感・自己有用感、他者への思いやり、人間関係を築く力、ものごとを成し遂げる力、公共の精神。（「令和の日本型学校教育」）

表1のように、生徒が「主体的」に「道徳的価値の理解」を深めるためには、生徒自身が意欲的で主体的に取り組むことができる表現活動や話し合い活動が必要である。本研究では、研究主題を実現する手だてとして、「道徳編」第4章「指導計画の作成と内容の取扱い」の5「問題解決的な学習など多様な方法を取り入れた指導」（1）「道徳科における問題解決的な学習の工夫」に着目して協議を行った。その上で、本研究では、道徳編に示されている問題解決的な学習を更に発展させ、生徒自身が「問い」をもち、生徒が考えた「問い」を授業展開の中で活用する「生徒の『問い』を生かした授業展開の工夫」を研究の視点として検証していくこととした。具体的には、生徒の「問い」を教員が活用した授業展開の工夫について検証した。例えば、生徒が導き出した「問い」について、ペアや少人数のグループで話し合うことや、「問い」を考えた生徒が前に出て学級全体に問うことなどが考えられる。各学校の実態に合わせながら、研究主題「主体的に道徳的価値の理解を深める授業の工夫」を実現するために、図1で示した指導方法で行った授業を検証した。

図1 「授業展開の工夫」



(2) 「教材に内在する道徳的価値を整理した教材分析の工夫」の定義

生徒自身が「問い」をもち、道徳的価値の理解を深める過程には、教材に内在する道徳的価値を教員が整理した上で、授業構成を考えることが重要である。そこで、本研究では図2の「教材分析シート」を作成し、教員が教材研究と授業構成を一連の流れとして並行して考えることができるようにした。

図2 教材分析シート

教材分析シート		教材分析	授業構成													
【主題】		<table border="1"> <thead> <tr> <th>あらすじ</th> <th>心の動き</th> <th>関連する内容項目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>	あらすじ	心の動き	関連する内容項目										【授業の流れ】	
あらすじ	心の動き		関連する内容項目													
【ねらい】		【本時のねらいを考える発問】		導入												
【教材観】		【教材を問う発問】														
【教材分析】		【道徳的価値を問う発問】		展開												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>あらすじ</th> <th>心の動き</th> <th>関連する内容項目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>		あらすじ	心の動き		関連する内容項目										◎ [生徒の問い] →	
あらすじ	心の動き	関連する内容項目														
		※ 学習方法 (生徒の問いを教員が活用し発問する ・ ペア ・ 班員同士 ・ 生徒が前に立ち問わせる)		終末												
		【授業の振り返り、思考の整理】														

「教材分析シート」左側の「教材分析」のシートを活用して、教員の教材分析を整理し、教材に内在する道徳的価値を明らかにした。本シートを用いて、教材のあらすじや主な登場人物等の心の動き、関連する内容項目等を細かく整理することで、教材についての教員の理解が一層深まり、ねらいとする道徳的価値が焦点化されると考えた。

教員が行った具体的な「教材分析」を基に、右側の「授業構成」のシートを活用して、教材分析に関連付けた授業構成を行うこととした。基本構成として、導入では、本時のねらいとする道徳的価値を考えさせる発問を行う。それにより、生徒自身に本時のねらいとなる道徳的価値についての考えや経験等を想起させ、生徒に授業の方向性を示す。また、展開における発問を二つに絞り、生徒が「ねらい」とする道徳的価値に沿った「問い」を考えられるようにした。一つは、教材の内容から道徳的価値について考えさせる「教材を問う発問」、もう一つは、ねらいとする道徳的価値についての考えを広げたり深めたりする「道徳的価値を問う発問」である。さらに、展開の中心である、生徒が「問い」を考える活動において、デジタルワークシート等のICTを積極的に活用することとした。なお、終末でもICTを活用することで、生徒の学習の振り返りを即時的に把握することができるとともに、データ化して蓄積することで、授業後に学習の様子を見取ることができるようにした。

2 調査研究

(1) 目的

平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査の生徒質問紙・学校質問紙の回答及び令和元年度道徳教育推進状況調査から、研究主題に迫る指導の工夫の視点を明らかにする。

(2) 内容

ア 平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査の生徒質問紙・学校質問紙の回答結果集計から、学習に取り組む生徒の意識の傾向を考察する。

イ 令和元年度道徳教育推進状況調査（中学校）集計結果から、道徳の指導に関する教員の意識の傾向を考察する。

(3) 対象

ア 【生徒質問紙】 東京都（公立）生徒数 71,458名（第3学年）

【学校質問紙】 東京都（公立）学校数 636校

イ 東京都公立学校教員【令和元年度】598校

(4) 調査結果

生徒や教員が道徳科の授業において、「考えを深めたり、話し合ったりする」活動に対して、どのように感じているか。

ア 平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査の生徒質問紙・学校質問紙の回答結果

【生徒質問紙】

「1・2年生のときに受けた道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいたと思いますか」

	1 当てはまる	2 どちらかといえば当てはまる	3 どちらかといえば当てはまらない	4 当てはまらない	その他無回答
東京都(公立)	31.7%	43.4%	17.3%	6.1%	1.6%
全国(公立)	34.0%	42.6%	17.3%	5.7%	0.1%

【学校質問紙】

「調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、道徳の時間において、生徒自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしましたか」

	1 当てはまる	2 どちらかといえば当てはまる	3 どちらかといえば当てはまらない	4 当てはまらない	その他無回答
学校数（東京都）	258校	329校	40校	0校	9校
東京都の学校数の割合	40.6%	51.7%	6.3%	0.0%	1.4%
全国の学校数の割合	38.6%	54.0%	7.1%	0.0%	0.2%

○ 考察

道徳科の授業において、「自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする

活動に取り組んでいた」と回答した生徒は 75.1%(生徒質問紙 1、2 の合計)である。しかし、東京都公立学校の教員の 92.3%(学校質問紙 1、2 の合計)が、「生徒自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしている」と考えており、生徒の回答との間に 17.2 ポイントの差があり、「考えを深めたり、話し合ったりする」活動に対して、生徒と教員では、受け止め方が異なっていることが分かった。

イ 令和元年度道徳教育推進状況調査（中学校）集計結果

「貴校では、令和元年度の道徳教育について、特にどのようなことを課題と考えていますか。次の項目から該当するものを三つ選んでください」

選択項目	学校数	反応率
道徳科の評価の方法	456 校	76.3%
道徳科の指導に当たっての教員の指導力向上	445 校	74.4%
道徳科の指導方法についての教員の理解	279 校	46.7%
道徳科の教科書以外の教材の整備・充実	155 校	25.9%
道徳の教科化の背景や意義、ねらいについての教員の理解	144 校	24.1%
全体計画の別葉の作成、より効果的な別葉への見直し・改善	88 校	14.7%
道徳科のより効果的な年間指導計画の作成	85 校	14.2%
道徳科に関する情報の保護者への周知	77 校	12.9%
道徳教育のより効果的な全体計画への見直し・改善	59 校	9.9%
その他	4 校	0.7%

○ 考察

調査研究の考察に当たり、研究主題「主体的に道徳的価値の理解を深める授業の工夫」から、「道徳科の指導に当たっての教員の指導力向上」について着目した。調査によれば、「道徳科の指導に当たっての教員の指導力向上」について課題を感じている学校は 74.4%(反応率)であり、「道徳科の評価の方法」の次に課題と感じていることが分かった。学校において、道徳教育を推進するためには、更なる教員の道徳授業の指導力向上が求められていると捉えられる。

(5) 考察のまとめ・実践研究に生かす視点

平成 31 年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査の生徒質問紙・学校質問紙の結果から、生徒が自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると実感できる授業を、目指していくことが必要であると考えられる。また、「令和元年度道徳教育推進状況調査」結果から、管理職が道徳科の指導に当たっての教員の指導力向上について、課題意識をもっていることが明らかになった。

そこで、上記のことを解決するために、生徒の主体性を引き出し、道徳的価値の理解を深められる効果的な指導方法を実現する必要があると考え、「生徒の『問い』を生かした授業展開の工夫」と「教材に内在する道徳的価値を整理した教材分析の工夫」を研究の視点として、実践研究に取り組んでいくこととした。

3 実践研究〈指導事例1：第2学年〉

- (1) 主題名 生命を大切にすることは (D (19) 生命の尊さ)
- (2) ねらい 自他の命を大切にしようとする心情を育てる。
- (3) 教材名 「国境なき医師団」 (出典：「中学校道徳2 とびだそう未来へ」教育出版)
- (4) 主題設定の理由

ア ねらいとする道徳的価値について

人は、多くの生命との関わりの中で生かされ、幸せを感じることができる。それは、家族や友人、そのほか様々な人のかけがえのない生命をいとおしみ、自らの生命を大切にしようとする意識が深まるということである。一方で、自然や人間関係の希薄さ、社会情勢の変化から、命あるものとの接触が少なくなり、「生命の尊さ」という自他の生命を尊ぶという態度を心の底から尊重する態度をもつことが難しくなっている。命あるものは互いに支え合っていることについて様々な側面から考えさせることで、自他の命を大切にしようとする心情を育てたい。

イ 教材について

「国境なき医師団」の一員として働く貫戸さんのもとに、助かる見込みがない5歳の少年が運ばれてくる。酸素ボンベが一本しかなく、いつ新しいものが手に入るか分からない状況の中で、この少年のために酸素を使い続けるのか、それともこれから来る患者のために酸素ボンベを止めるのかという判断を迫られる。5歳の少年の命を大事にしたいが他の命も大事にしなければならないという苦渋の決断をした、貫戸さんや看護師の心の葛藤について考えることを通して、「命を大切にすること」について、深く考えさせたい。

(5) 指導方法の工夫

ア 生徒の「問い」を生かした授業展開の工夫

- ・教員が生徒に「教材のどの部分について考えていきたいか」と問いかける。
- ・生徒に少人数グループで、教材のどの場面や心の動きについて考えたいかを話し合わせ、学級で共有する。その中で、ねらいに沿った「問い」を代表的な「生徒の問い」とする。

イ 教材に内在する道徳的価値を整理した教材分析の工夫

- ・教材分析シートを基に、ねらいとする内容項目以外を確認し、整理する。
- ・生徒の反応を予想し、問い返しに生かしたり授業構成を考えたりする。

あらすじ	心の動き	関連する内容項目
お母さんに連れられた5歳の男の子が運ばれてくる。	貫戸さんは、医者立場から、もう助かる見込みはないと感じる。	C13 C14
私(貫戸さん)は、酸素を切ろうとする。	酸素ボンベは1本しかなく、次にいつ手に入るか分からない。	B6 C13 C14
看護師は酸素を切ってはダメと、ジェスチャーで貫戸さんに伝える。	5歳の子供の酸素を切ろうとする貫戸さんを止めなければならない。	B6 C13 C14
私(貫戸さん)は、5秒待って、酸素を切る。	私(貫戸さん)にも迷いはあった。	B6 C13 C14
読者に酸素を切るという判断について、どう思うか問いかける。	今でも、当時の判断が正しかったのか、結論は出ていない。	C13 C14

(6) ICT活用の工夫

学習者用端末を活用し、貫戸さんの判断を支持する人は「青色の付箋」、支持しない人は「桃色の付箋」を電子モニター上に貼らせ、一人一人の意見を学級全体で即時に共有する。また、話し合いの後、どちらとも言えないという選択肢を与え、該当する生徒は「黄色の付箋」に変えさせることで、生徒の考えの変容を可視化する。

(7) 学習過程

	学習活動 (○発問 ◎生徒の問い)	☆指導の工夫 ◇評価
導入	1 本時のねらいとする道徳的価値について、意見交換をする。 ○命とは、どういうものですか。	☆命について考える。 [ねらいを考える発問]
展開	2 教材を読んで話し合う。 ○貫戸さんは、どのようなことを考えて、迷っているのだろうか。 ○看護師さんは、どのような気持ちだったのだろうか。 ○この教材のどの場面を、一番考えたいと思いますか。 ◎酸素を切る貫戸さんの判断を、支持しますか。支持しませんか。	☆貫戸さんと看護師の考えや気持ちを対比的に考えさせる。 [教材を問う発問] (指導方法の工夫イ) ☆考えたい部分を少人数で考えさせ、学級で共有した際、最も多かった問いを「生徒の問い」とする。 [道徳的価値を問う発問] (指導方法の工夫ア) ◇生命の大切さについて考えようとしている。(発言)
終末	3 授業を振り返り、思考を整理する。 ○今日の授業で考えたことや感じたことを書きましょう。	◇生命の大切さについて考えようとしている。(ワークシート)

(8) 成果と課題 (○成果 ●課題)

ア 生徒の「問い」を生かした授業展開の工夫

- 80.6%の生徒が、授業で自分のこととして考えることができた。
- 自分たちで「問い」を考えることで、授業に主体的に参加することができた。
- 生徒の「問い」がねらいに迫れているかにより、生徒の思考の深まりが変わった。
- 「問い」を考えることに時間をかけるため、他の部分に時間をかけることが難しかった。

イ 教材に内在する道徳的価値を整理した教材分析の工夫

- 生徒のほぼ全員が、「生命の大切さ」について考えることができたと回答した。
- ねらいとする道徳的価値に迫れる「問い」が、生徒から出た。
- 生徒の、ねらいとする道徳的価値についての理解の深まりに、差があった。

〈指導事例 2：第 1 学年〉

- (1) 主題名 相手のよさを認め合う (B (8) 友情、信頼)
- (2) ねらい 友情の尊さに対する理解を深め、真の友情の実現を目指そうとする心情を育てる。
- (3) 教材名 クラスメイト (出典：「新・中学生の道徳 明日の扉 1年」学研)
- (4) 主題設定の理由

ア ねらいとする道徳的価値について

真の友情とは、相互に変わらない信頼があって成り立つものである。人間として互いの人格を尊敬し高め合い、悩みや葛藤を克服することで、より一層深い友情を構築していくことができることを理解させ、生徒が自らその実現を目指そうとする心情を育てたい。

イ 教材について

本教材は、クラスメイトである優奈のものの見方や考え方を理解した健太の姿を通して、互いを認め合うことの素晴らしさや、深い友情を構築することの良さについて考える内容である。より深く友情についての理解を促し、自らもその実現を目指したいと思う心情を育てたい。

(5) 指導方法の工夫

ア 生徒の「問い」を生かした授業展開の工夫

- ・教員が生徒に「ねらい」に関わる文を提示し、そこから「問い」を考えさせる。
- ・生徒が考えた「問い」を二人組で発表する。
- ・代表生徒がつくった「問い」を全体で発表し、個人で考えを表させる。

イ 教材に内在する道徳的価値を整理した教材分析の工夫

- ・教材分析シートに沿って教員が教材を分析することで、ねらいとする道徳的価値を明確にする。
- ・関連する内容項目を整理することで、生徒の発言の根底にある内容項目に触れる「問い」を深められるようにする。

あらすじ	心の動き	関連する内容項目
健太と優奈が校内合唱祭の指揮者と伴奏者として放課後一緒に練習する。	小学校から一緒にの優奈との関係だが、気軽に話せなくなっていった。しかし、練習が始まり、健太は放課後の練習が楽しくなり、そのことばかり考えてしまう。	B 7 C 15
次第に周囲でうわさされ、二人の間に重い空気が流れてしまう。	楽しいのは自分だけかと思い、優奈が自分のことをどう思っているかが気になり、練習がうまくいかない。	B 11 C 15
暗い気持ちのまま過ごしていたが、兄が話を聞いてくれた。	何もする気にはなれないが、兄の言葉を通して優奈に対する接し方を考える。	A 1 B 11 C 14
翌日、朝早く練習をしている優奈に話しかけ、練習が再開された。	兄の言葉をきっかけに、互いにクラスのために協力するという気持ちに変わっていく。	A 1 B 9 C 15

(6) ICT活用の工夫

教員がホワイトボードツールを活用して生徒の「問い」を類型化し、生徒個人が気になった「問い」について回答させることで、生徒が主体的に考えられるようにした。

(7) 学習過程

	学習活動 (○発問 ◎生徒の問い)	☆指導の工夫 ◇評価
導入	<p>1 本時のねらいとする道徳的価値について、意見交換をする。</p> <p>○どういう時に友情は芽生えますか。また、友情が深まるタイミングはどんな時ですか。</p>	<p>☆道徳的価値への導入を図るために、二人一組で互いの考えを伝え、全体で共有する。</p> <p>[ねらいを考える発問]</p>
展開	<p>2 教材を教員が読み、内容を理解する。</p> <p>3 健太と優奈の関係性について、それぞれの立場について考える。</p> <p>○クラスメイトから見た健太と優奈はどのような関係ですか。それに対して優奈はどう思っていますか。</p> <p>○健太は優奈のことをどう思っているでしょうか。また、健太の兄はどのように言っていますか。</p> <p>○友情についての「問い」を考えよう。</p> <p>4 二人組で自分の「問い」を発表する。</p> <p>5 全体で何人か発表し、その「問い」について発言する。</p> <p>◎優奈が健太に思ったことを話してくれたのはどうしてだと思えますか。</p>	<p>☆価値が対立する場面を整理する。</p> <p>☆それぞれの立場で考える二人の関係性から、大切なことについて考えを深めさせる。</p> <p>[教材を問う発問] (指導方法の工夫イ)</p> <p>☆場面が気になった理由をワークシートに書かせる。</p> <p>[道徳的価値を問う発問] (指導方法の工夫ア・イ)</p> <p>◇教材や他の人の意見などを聞いて、考えを広げたり深めたりすることができる。(ワークシート)</p>
終末	<p>6 授業の振り返りを、ホワイトボードツールを活用し行う。</p> <p>○今日の授業で、考えたことや感じたことを書きましょう。</p>	<p>☆生徒の発言を拾いながら、道徳的価値について触れる。</p> <p>◇生徒は、友情について、自分のこととして考えられていたか。(発言・ワークシート)</p>

(8) 成果と課題 (○成果 ●課題)

ア 生徒の「問い」を生かした授業展開の工夫

- ねらいと関連する文章の中から「問い」を考えることで、主体的に学ぶことができた。
- 二人組で「問い」について話し合う活動を取り入れたことで、教材に基づいた道徳的価値の理解が深まり、その後の全体での話合いに効果があった。
- 代表生徒の「問い」について、学級全体で十分に考えを深められなかった。

イ 教材に内在する道徳的価値を整理した教材分析の工夫

- 92.8%の生徒が、本時のねらいについて考えられたと回答した。
- 生徒の「問い」の中にはねらいに沿っていないものもあった。

〈指導事例3：第1学年〉

- (1) 主題名 よりよい集団や社会をつくる一員としての自覚をもつ
(C (10) 遵法精神・公德心)
- (2) ねらい きまりはなぜあるのかということを理解し、それらを進んで守るとともに、そのよりよい在り方について考え、自他の権利を大切に、義務を果たして、規律ある安定した社会の実現に努める道徳的な判断力を育む。
- (3) 教材名 雨の日の昇降口 (出典：「中学道徳1 きみがいちばんひかるとき」光村図書)
- (4) 主題設定の理由

ア ねらいとする道徳的価値について

きまりはあるから守るという他律的な考え方だけでは、きまりが自分たちを拘束するものとなり、反発することにつながってしまう。きまりに対して他律的な捉え方を越えて、「尊重したいから守る」という自律的な捉え方ができるよう、社会の一員としての自覚をもつ道徳的な判断力を育てたい。

イ 教材について

本教材は、激しい雨が降る放課後に、自分が持参したはずの傘を見付けることができずにいる主人公が、クラスメイトの自己中心的な発言や行動に自分の心の弱さを露呈する場面があったが、最後はどんな状況でも正しいことをしようとする内容である。授業を通して、よりよい集団や社会をつくる一員としての自覚を育みたい。

(5) 指導方法の工夫

ア 生徒の「問い」を生かした授業展開の工夫

- ・生徒が「問い」を考える前に、雨の日の昇降口において、登場人物の心情を問う発問を通してねらいを明らかにし、生徒が「問い」を考えられるようにする。
- ・生徒が自分で考えた「問い」を基に班員同士で意見交流を行う。

イ 教材に内在する道徳的価値を整理した教材分析の工夫

- ・教材分析シートを基に、ねらいとする「遵法精神・公德心」以外の内容項目を整理する。
- ・教材の中の「法やきまり」を考える上で必要不可欠な内容項目を「自主・自律、自由と責任」と捉える。
- ・生徒が発問にどのように反応するかを予想し、整理した教材分析から授業構成を考える。

あらすじ	心の動き	関連する内容項目
昇降口の傘を日直である僕が持ち帰ることを伝える。金曜の朝、僕は傘を持って登校し、傘立ての隅に押し込んだ。昼休みが終わると、本格的に雨が降ってきて、クラスが一時騒然となる。	各々が各自の視点で行動をしている。一方、僕は自分自身で総合的に判断して対応している。	A 1 B 7 C 11、C 12、 C 13、C 15 D 19
放課後の昇降口で自分の傘を探すが見付からない。腹立たしい気持ちになる僕。また、昼休みに傘を忘れたとっていた山村君から、僕の傘とそっくりな傘を突き出される。	僕は真面目に行動しているのに、いやな思いをしたことが腹立たしい。クラスメイトは自分の都合で行動している。	A 1 B 6 C 11、C 12、C 15 D 19
自分と同じように傘が見当たらない生徒の声を聞く僕。傘を受け取ろうとしていた手を思わず引っ込める。再度、山村君の誘いを断り、雨の中へ駆け出した。	僕と同じ境遇の生徒がいることに我に返り、周りがどうであろうと正しいことをしようと決意する。	A 1 B 6 C 11、C 12、C 15 D 19、D 22

(6) ICT活用の工夫

生徒二人に対して一台のタブレットを活用し、僕と山村君のそれぞれの立場で「問い」を作成し、デジタルワークシートを通じて学級全体で共有する。

(7) 学習過程

	学習活動 (○発問 ◎生徒の問い)	☆指導の工夫 ◇評価
導入	1 本時のねらいとする道徳的価値について、意見交換をする。 ○法やきまり(ルール)を守るのはなぜですか。	☆本時のねらいを考えられるよう、導入時の発問を行う。 [ねらいを考える発問]
展開	2 教材を読み、内容を理解する。 ○昇降口でとった行動は、どんな考えからその行動をとったと思いますか。 ○雨の日の昇降口を基に、きまりについての「問い」を登場人物から考えよう。 ◎僕がずぶぬれになって帰ろうと決断したのはどうしてだろう ◎山村君は、なぜ他の人の傘を平気でとったのでしょうか。	☆登場人物の行動や考え方を捉え、きまりに対してそれぞれの考えがあることを確認する。 [教材を問う発問] (指導方法の工夫イ) ☆「きまりについて考える」と伝え、ねらいを明確にする。 [道徳的価値を問う発問] (指導方法の工夫ア) ◇教材や他の人の意見などを聞いて、考えを広げたり深めたりすることができたか。(発言)
終末	3 授業を振り返り、思考を整理する ○今日の授業で考えたことや感じたことを書いてみよう。	◇遵法精神・公德心について自分のこととして考えられていたか。(ワークシート)

(8) 成果と課題(○成果 ●課題)

ア 生徒の「問い」を生かした授業展開の工夫

- 77.1%の生徒がワークシートに道徳的価値に沿った「問い」を書き込むことができた。
- 振り返りアンケートでは、97.1%の生徒が主体的に考えられたと回答した。また、60%の生徒が主体的に考えられた場面を「『問い』を考えて意見を交流した場面」と回答した。
- 教員が想定していなかった「問い」が生徒から出たため、その生徒への対応があいまいになった。

イ 教材に内在する道徳的価値を整理した教材分析の工夫

- 振り返りアンケートでは、85.7%の生徒が、「法やきまり」について考えられたと回答し、ねらいを明らかにすることができた。
- 生徒がより多面的・多角的に考えることができるよう、更に教材分析を深め、内在する道徳的価値を分析することが必要である。

〈指導事例4：第3学年〉

- (1) 主題名 法やきまりの意義 (C (10) 遵法精神、公德心)
- (2) ねらい 法やきまりの理解を深め、社会生活の中で守るべき正しい道としての公德を大切に作る心である公德心を基に、規律ある社会の実現を目指そうとする道徳的な判断力を育む。
- (3) 教材名 「二通の手紙」 (出典：「私たちの道徳」文部科学省)

(4) 主題設定の理由

ア ねらいとする道徳的価値について

「法やきまり」は、自他の権利を大切にして義務を果たす。また、遵法精神を支える「公德心」を理解することで、互いの自由意志が尊重され、結果として規律ある安定した社会が実現することを理解した上で、道徳的な判断力を育むことが大切である。

イ 教材について

本教材は、模範的職員だった元さんが、幼い姉弟への同情心から園のきまりを破り、園から処分を受けたことで、自分の行動について考え自ら職を辞するという内容である。授業を通して法やきまりの理解を深め、公德心を育みたい。

(5) 指導方法の工夫

ア 生徒の「問い」を生かした授業展開の工夫

- ・授業展開の前半で、二通の手紙についてイメージや心情などで考えさせ、「ねらい」を明らかにした上で、生徒が「問い」を考えられるようにする。
- ・何人かの生徒が前に出て、学級全体に自分で考えた「問い」を発表し、意見交流を行う。

イ 教材に内在する道徳的価値を整理した教材分析の工夫

- ・教材分析シートを基に、ねらいである「法やきまり」以外の内容項目を整理する。
- ・教材の中の「法やきまり」と類似する道徳的価値や、対立する「思いやり、親切」を定義付ける。
- ・予想される生徒の発言が、どの内容項目に当てはまるかを想定し、授業構成を考える。

あらすじ	心の動き	関連する内容項目
何日も前から動物園を外から見ていた姉弟が、入園時間が過ぎた時間に子どもだけで入園したいと訴えてきた。入園係の元さんは、姉弟になるべく早く戻るよう伝え、園のきまりを破り、入園させる。	姉弟の様子に同情した元さんは、姉弟に対する思いやりの気持ちから入園させる。	B 6、 C 10、C 11、C 14
姉弟の母親から元さんに手紙が届く。手紙には、職員に迷惑をかけたことへの謝罪と、元さんの姉弟への優しい気持ちと行動への感謝の言葉が書かれていた。	元さんは、姉弟の願いを叶え、姉弟の家庭を明るくしたことで、自分は良いことをしたと感じ喜んだ。	B 6 C 10、C 14
園のきまりを破った元さんに、園から懲戒処分の手紙が渡された。元さんは、母親の手紙と懲戒処分の手紙を見比べて、自分の無責任な行動を反省し、晴れ晴れとした顔で自ら職を辞した。	元さんは、園のきまりを破ったことで、姉弟を危険な目に合わせ、多くの職員に迷惑をかけ、園を混乱させたことに対して反省し後悔した。	B 6 C 10、C 11、C 12 C 14

(6) ICT活用の工夫

生徒に同時編集設定したデジタルワークシートを活用して「問い」を考えさせることで、生徒同士が互いの「問い」を見合うことができ、主体的な話し合いにつながるようにした。

(7) 学習過程

	学習活動 (○発問 ◎生徒の問い)	☆指導の工夫 ◇評価
導入	1 本時のねらいとする道徳的価値について、意見交換をする。 ○「法やきまり」という言葉を聞いて、どのように感じますか。	☆生徒が自分の体験を基に、ねらいを考えられるようにする。 [ねらいを考える発問]
展開	2 教材を読み、内容を理解する。	☆黒板に二通の手紙を提示し、生徒の発言を整理しねらいを明らかにする。 [教材を問う発問] (指導方法の工夫イ)
	3 二通の手紙について考える。 ○母親の手紙、園の手紙には、それぞれの様な意味がありましたか。	
	4 「法やきまり」について考える。	
	5 自分で「問い」を考える。 ○教材の内容を基に、「法やきまり」について「問い」を考えましょう。 ◎元さんが、子供たちを園に入れたことをどう思いますか。	
	6 「法やきまり」について教員が話をする。	☆発問でねらいに焦点化する。 [道徳的価値を問う発問] (指導方法の工夫ア) ☆デジタルワークシートを用いて、「問い」を共有する。 ☆代表生徒の「問い」について、意見交流を行う。
終末	7 アンケートソフトで授業の振り返りをする。	◇「法やきまり」について広い視野から考えようとしている。(授業観察・デジタルワークシート) ☆生徒の考えを取り上げながら話す。 ☆意識調査と授業の振り返りを行う。 ◇「法やきまり」を自分のこととして、深く考えられている。(アンケート) ☆本時の良かった点を生徒に伝える。
	8 教員がまとめをする。	

(8) 成果と課題 (○成果 ●課題)

ア 生徒の「問い」を生かした授業展開の工夫

○83%の生徒が道徳的価値に沿った「問い」を考えることができた。

○二名の生徒が「問い」を学級全体に対して進んで問い、主体的な意見交流の時間を設けることができた。

○90%の生徒がねらいについて主体的に考え、そのうち65%の生徒は「『問い』を考えて意見を交流した場面」で主体的に考えたと回答した。

●道徳的価値に十分沿っていない「問い」を考えた生徒がいた。

イ 教材に内在する道徳的価値を整理した教材分析の工夫

○導入発問から、生徒にねらいとする道徳的価値について考えさせることができたことにより、振り返りでは90%の生徒が「法やきまり」についての考えを深めた。

●5%の生徒が道徳的価値に十分沿っていない「問い」を考えたため、更なる、教材分析が必要である。

VI 研究のまとめ

1 成果と課題

本研究では、研究主題「主体的に道徳的価値の理解を深める授業の工夫～生徒の『問い』を生かした授業展開を通して～」を目指し、二つの研究の視点を設定し検証を進めた。本研究の成果と課題は、検証授業後に行った、授業観察と生徒振り返りアンケートで考察することとした。

(1) 成果

研究の視点1「生徒の『問い』を生かした授業展開の工夫」に関しては、いずれの検証授業においても90%前後の生徒が、「主体的に授業に参加することができ、他者の発言から自分の考えを深められた」と回答している。また、授業のねらいについて主体的に考えられた場面が、「自分で『問い』を考えて意見を交流した場面」と回答した生徒は、いずれの検証授業においても60%を超えた。さらに、指導事例4では、自ら考えた「問い」を進んで学級全体に問いかけた生徒もおり、本研究の生徒自身が「問い」をもつ授業展開については、生徒が主体的に道徳的価値の理解を深められるという一定の成果があったと考察できる。

研究の視点2「教材に内在する道徳的価値を整理した教材分析の工夫」に関しては、いずれの検証授業においても、85%以上の生徒が「ねらいとする道徳的価値について考えを深められた」と回答しており、教員が授業の前に、教材に内在する道徳的価値を教材分析シートで整理した上で授業構成を考えることは、生徒に「ねらい」とする道徳的価値に沿った「問い」を考えさせることにつながっていると考察できる。

(2) 課題

研究の視点1「生徒の『問い』を生かした授業展開の工夫」については、いずれの検証授業においても、全ての生徒にねらいとする道徳的価値に十分沿った「問い」を考えさせることができていないという課題が見られた。また、研究の視点2「教材に内在する道徳的価値を整理した教材分析の工夫」について、教員が事前準備となる教材分析シートを十分に活用して教材に内在する道徳的価値を整理できなかった場合、生徒の実態に応じた柔軟かつ多面的・多角的な授業を展開することが難しいという課題も見られた。

これらの課題を改善するには、教員が授業で用いる教材に対して、多面的・多角的な見方を意識しながら分析し、より一層「ねらい」を焦点化した授業構成にする必要がある。また、生徒の道徳的価値の理解をさらに深めるために、教員が日頃から生徒理解に努め、授業の中で生徒の心の動きや考えを的確に把握することが大切である。教員が、教材分析シートを十分に活用した上で授業を構成し、的確な生徒理解に基づいた授業を行うことで、生徒は主体的に道徳的価値の理解を深めることができると考える。

2 まとめ

本研究により、生徒が主体的に道徳的価値の理解を深めるために、生徒自身が考えた「問い」を活用していく授業展開は、一定の効果があることが分かった。「道徳編」や「令和の日本型学校教育」にあるように、これからの予測困難な時代において、生徒は、主体的に道徳的価値の理解を深め、より良い社会を創り上げていく力が求められている。本研究がその育成の一助となるように、今後それぞれの地区において、還元していく所存である。

令和3年度 教育研究員名簿

中学校・特別の教科 道徳

学 校 名	職 名	氏 名
渋谷区立渋谷本町学園中学校	主任教諭	◎福 守 久 子
八王子市立松が谷中学校	主任教諭	三 瓶 真 悟
町田市立南大谷中学校	主任教諭	栗 橋 亜紀子
東久留米市立西中学校	主幹教諭	知 名 英 則

◎ 世話人

〔担当〕 東京都教育庁教指導部指導企画課
指導主事 春原 裕太

令和3年度
教育研究員研究報告書
中学校・特別の教科 道徳

令和4年3月

編集 東京都教育庁指導部指導企画課
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
電話番号 (03) 5320-6849